平 成 ３０ 年 度

学 校 評 価(結果)

本校の教育方針
思いやり，助け合い，支え合う，未来を拓く人材の育成
～これからの人・社会・環境を考えエシカルに行動できる人づくり～
①　思いやりの心を持ち，人権を尊重し，人とつながり行動できる生徒の育成
②　地域や学校に誇りを持ち，主体的に目標に向かって努力する生徒の育成
③　創意工夫し，連携・協働する活力ある教職員組織

徳島県立城西高等学校

総　括　評　価　表

重点課題　1
「城西スタンダード（城西高校生としての自覚と誇り）の確立」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
（全体レベル） 生徒と教師が信頼関係を深める中から思いやり，助け合い，支え合う集団を作り，学校に誇りを持ち，心身ともに健康で望ましい人間関係を築ける仲間作りを図る。 （下位組織レベル） ①思いやりの心を育み，人権を尊重する意欲と実践力を高める。 ②望ましい生活習慣の確立と食育を推進する。 ③ルール・マナーの遵守と交通事故の防止を図る。 ④命を守る防災意識を高める。	評価指標 自主的なあいさつの実践 実施率：70%以上	評価指標による達成度 毎日自主的にあいさつをする生徒は，月当初では55.3%であったが，1月には60.2%と微増。来年度は70%以上の目標を達成したい。	評定 B	総合評価 評定　B あいさつが自主的にできる生徒は基本的生活習慣の確立に深く関わりがあると考えられる。これは規範意識にもつながり，服装・頭髪，交通事故防止にもつながっている。また，これらは城西スタンダードが着実に生徒全体に浸透しつつある結果と思われる。 ① ほとんどの生徒が思いやりの心を持って人と接することを意識しているようである。自ら進んで人権課題に取り組む意欲や表現力を高める指導をさらに充実する必要がある。 ②-1　朝食の重要性を理解している生徒は多いことから，実践へ繋げられるよう家庭との連携を図る必要がある。 ②-2　栄養素に関する知識が，生涯における健康の維持に欠かせないことを全員の生徒に理解させたい。 ③　交通事故発生件数は前年度と変わらず，ルール･マナーの遵守を常日頃から徹底する必要がある。 ④　職員･生徒合わせて約30名が参加し避難所運営体験を行ったが，時間的に余裕を持たせた方がよかった。	B	○明るく元気にあいさつする雰囲気を学校中に広げる。 全校集会や学年集会，ホームルーム活動等あらゆる機会を通じて生徒の城西スタンダードの確立を図る。
	①-1 公開授業実践後の自己評価 ①-2 人権作文提出者100人以上及びその内容評価 ①-3 自己評価B以上	①-1　市村人研公開授業では，多くの教員が意欲と実践力を「少し」または「ある程度」高めることができたと答えている。 ①-2　作文提出者58人。身近な視点から人権問題について書いている作文があるが，文字を書く習慣を付けることから始める必要がある。 ①-3　「ホームルームや部活動など，思いやりの心を持って人と接することができる」という項目で，B評価以上92.8%。	B				
	②-1　朝食の摂取率の向上（60%以上） ②-2　五大栄養素に関する知識の定着（70%以上）	②-1　毎日朝食を摂取している生徒は54.5%であり，63.2%を下回る結果となったが，朝食が大切であると思っている生徒は84.1%であった。 ②-2　五大栄養素については74.5%の生徒が理解しており，目標を上回った。	B				
	③　交通事故発生件数　対前年比50%	③　前年度は17件で今年度は15件（88.2%）であった。重大な事故も発生しており，来年度は事故防止を周知徹底したい。	B				
	④　防災知識を活用した地域防災での実践（年1回以上）	④　加茂名地区市民総合防災訓練に参加し，防災意識を高めることができた。	B				○本校に避難を予定している住民と連携し，避難所運営訓練を実施する。
	活動計画 ①-1　市村人研を生かして教科及びホームルーム活動の人権教育を工夫実践する。 ①-2　夏季休業中の課題としての人権作文に，自主的積極的な作成を促す。 ①-3　全教職員が，心を育て人権を尊重する態度を育てる方策を考え実践する。	活動計画の実施状況 ①-1　研究大会に向けた研修での学びを授業づくりにつなげた。また，大会実施後，1月と2月に地域と連携して各学年で人権教育講演会を実施した。 ①-2　夏季休業中に各ホームルームで資料を配布し人権作文作成し自己を見つめることの意義を全校生徒に伝えた。 ①-3　公開授業の指導案作成の際に教育委員会から助言をいただいたり，教職員全体で人権教育研修を行った。	成果と課題 ①-1　2月に1･2学年で実施した講演では，「学校で学べることに感謝して学校生活を送りたい」という感想が多く見られた。自分自身にできることを具体的に考え，実践しようとする意欲をもつ生徒が育っている。 ①-2　自ら自由課題の作文を提出し，意見を伝えようとする生徒はいるものの，経験を通して学んだり，考えたりしたことを伝える力と自信が不足しているため，発表することができない生徒もいる。表現力を育むことが課題である。 ①-3　市村人研大会では，人権の視点をもって授業を行うことや，地域との連携についての学びを深める機会となった。また，大会を通して，指導のあり方を		学校関係者の意見	

			見直す機会にもなった。教職員全体で研修する時間と機会の確保が課題となっている。		
	②-1 学校保健委員会の充実を図る。 ②-2 食育だよりの充実を図り,確認アンケートを実施する。	②-1　学校歯科医，学校薬剤師，PTA 役員等に参加していただき，「学校における効果的な歯科保健指導について」というテーマで，学校保健委員会を開催した。(12/12実施）健康診断結果等の報告や学校歯科医，学校薬剤師による指導助言をいただいた。 ②-2　食育だよりについては90.4%の生徒が理解しやすかったと答えている。	②-1　本校の健康課題について，活発な意見交換ができた。学校歯科医及び学校薬剤師より御指導いただいたことを，今後の保健教育に生かしていきたい。 ②-2　生徒による親しみやすいイラストの挿入が理解のしやすさにつながったと考えられる。	○朝食摂取率の向上を図る上で，睡眠の重要性を理解させることが重要ではないか。 ○食育の推進について具体的な方策を示してほしい。	○栄養についての理解を定着させるため方策を工夫したい。 ○より充実した内容を検討し，食育の推進へとつなげたい。
	③-1 服装･頭髪検査を年8回実施し，学校全体で連携して継続的に指導する。 ③-2 自転車安全実技講習会,交通安全教室のほか交通マナ-アップ活動を年間3回実施する。 ③-3 自転車点検の実施や登下校校門指導の実施,集会での安全運転の呼びかけを行う。	③-1 服装･頭髪検査を年8回実施した。 ③-2 自転車安全実技講習会,交通安全教室のほか交通マナ-アップ活動を年間３回実施した。 ③-3 自転車点検を3回実施。登下校校門指導の実施,正門東の交差点で安全運転の指導を実施した。全校集会での安全運転の呼びかけを継続していきたい。	③-1 一部の生徒に化粧やスカートの丈を短くしている生徒がいる，今後，丁寧に指導していきたい。。 ③-2 イヤホンを付け自転車を運転する生徒が見受けられる。今後は，警察にも協力を仰ぎながら交通マナーの徹底を図りたい。 ③-3　交通ルール･マナーを守る指導の徹底が必要である。各種集会等を通じて毎回呼びかけたい。	○生徒自身がもっと城西高校生としての自覚と誇りを熟成できるような指標が必要ではないか。 ○城西スタンダードの確立により，言葉遣いなど生徒の自主的な向上が現れていると感じる。 ○誇りを持たせるためには，活躍している卒業生の講演会を開催すると良いと思う。 ○「服装･頭髪検査」のできたできないの問題よも，生徒自身の自主的な変容を重視することが大切ではないか。 ○登下校はもちろんのことそれ以外でも交通安全に心がけ，来年度は事故ゼロを目指してほしい。	○家庭との連携を図りながら継続的に指導する。 ○生徒のマナーアップ活動を等して交通マナーの向上･交通ルールの遵守を図る。 ○交通ルール・マナーの遵守を，全校集会･学年集会・ホームルームで徹底する。
	④　効果的な防災訓練や避難訓練の実施する。	④　第1学年を対象とした防災訓練と，地域（加茂名地区）と連携した防災訓練を行った。	④　第1学年全員が起震車体験･水消火器体験･煙体験を行うことができ有意義であった。	○日頃より防火防災の意識を高めてほしい。 ○「防災訓練や避難訓練の実施」の項目に「避難訓練」の標記がない。「改善方策で訓練ができる」となっており，危機管理意識の向上を数値化したり,「生き抜く力」をつけるなど教育的観点も必要である。	○全員が体験的訓練ができるよう継続したい。 　城西高校体育館での避難所運営訓練をする必要がある。

総　括　評　価　表

重点課題　2
「**確かな学力の育成**」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価				
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	総合評価（評定）	
（全体レベル） 指導方法の工夫・改善を進める中で，主体的な学びを創造し，学習意欲を高め，基礎・基本を重視した知識・技術の定着を図り，確かな学力を育成する。 （下位組織レベル） ①すべての生徒にわかりやすい授業（ユニバーサルデザイン）をする。 ②基礎学力を確実に定着させる。 ③主体的・対話的で深い学業研究を深める。 ④読書活動を充実する。	生徒の総合評価「授業満足度」90%	生徒の総合評価「授業満足度」91.87%	B	評定　B 生徒による授業評価は概ね目標を達成できており，各教員の努力・工夫がなされていると思われる。しかし，生徒自身が力がついていると実感できている割合は，それより低くなっているため，今後は内容の定着を図るための課題や反復学習をより多く取り入れる必要があると考えられる。 生徒の活字離れが，感じられる結果となった。本に触れる機会を増やし，生徒の興味を引く蔵書を揃えていくなど根気強く働きかけていかなければならない。	B	○生徒へ蔵書の案内，推薦図書を案内し，読書の呼びかけを続けていきたい。
	①　生徒による授業評価「授業内容，指導の仕方」 3.2以上/4点（昨年度3.17点）	①　生徒による授業評価「授業内容，指導の仕方」3.20点	B			
	②　授業での課題提出率100%	②　授業での課題提出率97%	B			
	③　主体的・対話的で深い学びの授業実践例を作成 各教科1以上	③　各教科での授業実践例の作成提出ができた。（教諭2名以上の教科）	B			
	④　生徒の読書習慣の確立 読書時間 30分以上/週：50%以上 生徒50%以上） 図書館の本を借りる生徒割合：70%以上	④　1週間に30分以上読書をした生徒 30% 図書館の本を借りる生徒の割合 68.8%	C			
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題		学校関係者の意見	
	①　学習の流れを示し，見通しを持たせて授業を展開する，重要な所を丁寧にわかりやすく説明する，書く時間と聞く時間の区別をつける，などの授業実践をする。	①　最初に前時の復習をし，本時の内容を示すなど，見通しを持って展開。書く時間と聞く時間の区別をつけメリハリを持たせる。板書しながら説明をしない。身近な出来事や体験と関連づけて理解を促す。実習と座学を関連づけて理解を深める。	①　授業評価では板書や説明がわかりやすいが87%，教材の工夫がされている83%と全般的に生徒の理解を深める取り組みができた。興味のわく内容であるが，67%とやや低めなので，内容自体を変えることは難しいが，視点を変えた切り口が必要であると思われる。		○「確かな学力」のとらえ方として少し狭い気がする。課題発見能力や問題解決能力，表現力を含めた資質を多面的な能力として捉え，これらが見える評価指標を検討すべきではないか。 ○「確かな学力」の定着を図る上で，指導と評価の一体化が必要である。生徒の授業評価はあるが，教師側の評価，これが授業改善につながっていくものなので，より具体がほしい。	○教師も個々に学習指導の目標の設定と評価を行っているので，それを共通の指標を設けて生徒の満足度や達成度と教員の達成度の両方向から評価したい。
	②-1　家庭学習課題をとおして基礎を反復させる。 ②-2　確認テストを定期的に行う。	②-1　課題や確認テストを定期的に行うことで家庭学習を促すことができた。 ②-2　基礎基本となることについて確認テストを繰り返し行うことで，生徒の意識付けを図ることができた。	②　各教科で家庭学習課題や確認テストを行い，定着を図ることができた。今後も生徒にとって力がついたと実感できるように引き続き課題を与え目標を設定して確実にできることを増やしていく必要がある。		○たいへん努力されていると思う。予習や復習の時間，宿題の提出等家庭学習の状況はどうなのか。	
	③-1 公開授業週間に1回以上授業見学をし，記録を残し，互いに学びのあるものとする。 ③-2 各教科で授業研究会を実施する。	③-1　オープンスクールの期間を市人権大会と同時期を予定していたが，人権ホームルームや公開授業の準備のため充分に行うことができなかった。 ③-2　適宜，教材や効果的な進め方の共有や評価基準の共通理解が行われた。	③　市村人権大会の公開授業の準備として，県教育委員会の指導主事との指導案の検討会を活かして，公開授業を実施した。ゆとりを持って計画を立て定期的に各教科で授業研究会を持ち，教材理解や教授法についての意見交換できるようにしていきたい。			
	④-1 「図書館だより」（読書のすすめ・新刊紹介・図書委員によるお勧め本の紹介）や年3回の「図書館フェア」等による読書の啓発活動を行う。	④-1　図書館だよりを年間11回発刊し，新刊図書の紹介や読書に対する啓発を行った。また，図書館だよりの中には図書委員による推薦図書のコーナーを設け，生徒目線の啓発活動も併せて行った。「図書館フェア」については，年3回行うとともに，ホームルームにおいては「エシカル消費」に関する本を置き，　エシカル消費推進に協力し	④-1　図書委員は推薦図書の紹介文を書いたり，図書館フェアの手伝いをするので本を読む割合が高くなった。 「エシカル」に関する図書は各ホームルームに置いているが，なかなか手に取ってくれない。本の知識を視覚的に訴えるようにできればと考える。		○スマートフォンの普及で，図書離れが進んでいるものの，読書は重要であり，図書館の利用を少しでも拡大してほしい。 ○本を読む喜びを伝えられる取組を考えてほしい。 ○自主的な活動に期待しても無理なので，指定図書を決めて読ませてはどうか。	○各教科や各ホームルームと連携を取り，授業やホームルーム活動での図書館の利用を更に促すようにしたい。 また，生徒たちに大切だと思う本の言葉を抜き出し，本への興味・関心付けを図りたい。

	④-2 春と秋に家庭読書習慣の日を決め，アンケート調査をする。	た。 ④-2　5月と11月の2回，家庭の読書調査を行った。	④-2　読書調査では，本を読む時間が回を重ねるごとに減少傾向にある。（スマートフォンは　動画も有るが，文字が多いので，文字離れはしていないようだ）	○読書したいと思わせる取組や読み聞かせ等により，文字での表現力を理解し，そのことで本への興味・関心付けにつなげていくことが必要ではないか。	○スマートフォンの普及により，紙媒体で活字を読む習慣が減ってきている。また，知識も興味のあるものは深くなるが，興味のないものは浅くなってしまう。大切なものはワンフレーズでも紙に書いて目につくようにしたい。

総　括　評　価　表

重点課題 3
「社会的自立と進路実現の支援」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） 主権者としての自覚を促し，学科の目的に応じて専門教育とキャリア教育を推進し，望ましい職業観・勤労観の育成を図るとともに，生徒の進路実現に努める。 （下位組織レベル） ①主権者教育を推進する。 ②組織的なキャリア教育を推進する。 ③一人一人の教育的ニーズを把握し，進路実現を支援する。	３年生の進路決定満足度90%以上	卒業生の進路決定満足度 92.9% （1月末現在）	A	評定　A 就職に関しては求人状況が良好で，進路決定者の進路に対する満足度は上昇している。企業訪問や面接指導に多くの教職員が携わり，生徒の実態に即したきめ細やかな進路指導が行えている。企業への応募前見学はミスマッチ防止のために有効だった。生徒の状況把握と必要な情報提供は3学年担任と連携して概ねできた。1･2年生への段階的な進路指導の在り方を強化させる必要がある。安易な進路決定で，ミスマッチにならないよう早い段階から目的意識を持たせることが課題である。 進路講演会･ガイダンスについては，生徒個々の希望やニーズに応じた講座を開講し，早期からの進路意識向上につなげていくことが課題である。	A ○学校に伺ったときに挨拶ができていて良いコミュニケーション能力が付いていると思う。	○系統的な進路指導体制のもと，生徒一人ひとりに応じた進路指導を実施していく。
	①-1 主権者教育講演会と研修会の満足度 生徒（3年生）：80%以上 教職員：80%以上 ①-2 主権者としての自覚率60%以上	①-1 主権者教育生徒向け講演会満足度 84%（3年生、2018年12月現在） 主権者教育職員研修満足度 90% ①-2 主権者としての自覚率 70%	A			
	②-1 訪問企業数45社及び就職定着度の向上 ②-2 模擬会社の活動参画意識70%以上 ②-3 ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟや企業訪問を通じての職業観の育成	②-1　訪問企業数 48社 ②-2　活動参画意識100% ②-3　ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟへの参加，企業への応募前見学により自分の希望に合う企業選び，就職への意識付けを行った。	A			
	③-1 研修活用度70%以上 ③-2 進路ガイダンスに対する満足度90%以上 ③-3 連携活動件数50件以上	③-1　研修の満足度80%，活用度73% ③-2　進路ガイダンス満足度は，1年98.2%，2年96.9%である。進路講演会(1年対象)満足度は94.4%。 ③-3　連携活動件数70件以上	A			
	活動計画	活動内容(取り組み)	成果と課題		学校関係者の意見	
	①-1 生徒（3年生）・教職員を対象とした講演会と研修会を実施（各1回）する。	①-1 教職員向け研修（エシカル教育の視点からみた主権者教育11月13日実施） 3年生徒向出前講座（12月18日）のあと生徒会役員選挙へとつなげて行った。	①-1　生徒向出前講座では，主権者教育と生徒会役員選挙とは関連性が高いことに触れ，学校環境や本校の未来を見据えた選挙を行うことを実社会につなげて考える機会と捉えた。職員研修では環境問題と主権者問題との一体性について研修した。			○18歳選挙権に始まる成人年齢引き下げなどの社会の動きにどのように対応するか，生徒の関心も高い。 授業や講演の意義も浸透したと考えられ，継続した，授業や話題の必要性を問い続けるのが最善策である。
	①-2 主権者をテーマとしたホームルーム活動を実施する。(年間1回以上)	①-2 学年単位で計画し担任の指導のもとで、「私たちが拓く日本の未来」を活用して行った。また関連する教科の授業でも触れられるよう心がけた。	①-2　１年生の総合学科，２年生の農業科は現代社会との関連はあるが，２年の総合学科では社会系授業の狭間にあたり，教科授業と指導内容との関連が薄かった。			
	②-1 ミスマッチ防止を図るための企業訪問を実施する。	②-1　就職希望者延べ66名が46社の企業に応募前見学に参加した。また，31名の教職員が48社へ訪問し，新規求人開拓も行った。昨年度就職した県内企業35社のうち25社へ旧担任が訪問し，定着のための情報交換やアフターケアを行った。	②-1　就職希望者数に対して求人数が多いのでほとんどの生徒が早期に進路決定している。今後，生徒数が増加するので積極的に新規企業開拓を行うことが課題である。			○常に生徒の進路希望先の面接試験について，情報の収集・更新に努めるとともに，一層手厚い指導を行っていく。
	②-2 アグリビジネス科で模擬会社を設立し，会社経営を通した学習活動を実施する。	②-2　フェアトレード商品や卸売市場で季節の野菜等の仕入活動を実施した。そよかぜでの毎回の販売活動を帳簿に記入し，期末には会計報告として損益計算書と貸借対照表を作成した。消費者意識調査を実施し，その報告書を作成した。	②-2　損益計算書や貸借対照表を作成することによって，経営成績や財務状況を明らかにすることができた。消費者意識調査の報告書作成によって，経営の問題点や強みなどを把握することができた。			○模擬会社についてはアグリビジネス科の専門科目において，今年度よりも深く取り組み，経営活動を活発にしたい。
	③-1 教職員の進路指導スキル向上に向けての研修を実施する。	③-1 3年担任については，1,2学期に上級学校10校の進学説明会に参加し進学先研究を行うとともに学年団で情報を	③-1　進路指導において様々な支援を必要とするケースが考えられるので，生徒の実態に即した適切な進路指導を心がけた		○昨今は人材不足で求人はたくさんあるが，安易に就職を決めるのではなく，慎重に選んでほしい。ま	○今後とも機会をとらえて生徒の進路希望先と情報交換等を行い，

	③-2 進路実現に向けて生徒の意識付けを図る進路ガイダンスや進路講演会を実施する。 ③-3 上級学校，ハローワーク等と密接に連携する。	共有。1･2年担任については1学期に基礎力診断テストの結果からの進路指導方針，また新しい入試制度についての研修会を実施した。 また，3学年担任に進学・就職の流れの説明・情報提供を実施した。徳島地域若者サポートステーションによる就労支援を必要とする生徒への支援例についての講義を2回受けた。 ③-2 5月に進路講演会を実施し，7月下旬に就職希望生を対象にビジネスマナー講習会を実施し，生徒の進路実現を支援した。 ③-3　進学に関しては12回の進学説明会・3回の進路ガイダンス等で上級学校職員と入試や学校独自の奨学金制度，進学した本校生徒の動向に関する情報・意見交換を実施した。 　就職に関してはハローワークへの訪問2回，電話による情報交換15回，徳島地域若者サポートステーションへの訪問2回，来校2回で，情報交換を実施した。	い。また，新しい入試制度に向けて，教員の意識を高めるための研修も継続したい。 ③-2　ビジネスマナー講習会は初の試みであったが，就職希望生だけでなく，教職員の進路指導にも有効な内容だったので，今後も継続したい。 ③-3　進学説明会で得た上級学校の特色等の情報を教員が生徒に伝えることで，生徒の進学への意識向上につながっている。専門機関と密接に連携し，情報交換することで，学校だけで指導することが難しい生徒に対してもきめ細かい指導をすることができ，進路決定につながった。	た，早期離職を防止するためにも卒業後のフォローも必要ではないか。 ○生徒の進路実現に向けて，学校全体として，しっかり取り組んでいることが伺える。 ○３年生だけでなく，１・２年生からの段階的な進路への意識付け，支援の様子がわかる。資料，活動計画がより明確に提示されると，さらによくわかるものとなるのではないか。 ○ 就職ガイダンスや説明会等十分行われ，満足すべき成果をあげている。 ○進路決定満足度は，生徒個々の目標に向け，支援できていることは大きな成果ではないか。	連携を密にしていく。 ○今後も生徒の進路希望に応じた進路ガイダンス等を実施するとともに，生徒の視野を広げるような進路講演会等を計画したい。 ○ハローワークとの密接な連携を継続していかなければならない。

総　括　評　価　表

重点課題　4
「**エシカルな視点に立った行動の推進**」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） 持続可能な循環型社会の構築に向けた「エシカル」な行動を生産・消費・生活に関係付け，主体的に考えれるような教育活動を展開する。 （下位組織レベル） ①人・社会・地域に関わる活動の実践と広報を行う。 ②エシカルな観点から環境ISOに関わる活動を実	生徒のエシカル消費実践度（身近なことの具体的取組報告）90%以上	生徒のエシカル消費実践度92%	B	評定　B ①　生徒の具体的な実践例は，ゴミの分別，地産地消など身近に行えることが多いが，「エシカル消費」に取り組むきっかけになった。また，教員も年数を経るごとに参画意識は上昇している。 ②　エアコンの使用のガイドライン作成をしたが，教室によって感じる温度が異なるなど，ガイドラインに沿わない実態が表れてきたため，今後の課題として考慮しなければならない。	A ○達成度は目標値をクリアしている。	
	①-1　教職員の参画意識70%以上 ①-2　エシカルクラブの実践活動発表5回以上（校内・校外含む）	①-1　参画意識78% ①-2　校外での発表5回	B			
	②　環境ＩＳＯ活動の点検結果 年間2回(9月2月)の内部評価Ａ	②　整美委員会によるゴミの分別作業を行ったり、エアコンの使用のガイドライン作成をしたり，環境 ISO の宣言書を新たに掲示することによって生徒への周知を行ったが，節電に関してはまだ意識付けが低いようだ。	B			
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題		学校関係者の意見	
	①-1　教職員の理解と意識の向上のための研修会を実施する。 ①-2　全校生徒が「エシカル消費」に関する取り組みを行い，代表生徒を中心に活動発表を行う。	①-１　教職員研修として，エシカルの視点から見た主権者教育を実施した。 ①-2　主な校外での活動発表として，6月に当時の福井照内閣府特命担当大臣に，7月に次世代エシカル・フェスなどで本校の取り組みを発表した。	①　職員研修では，エシカルカフェなど参加度の高い研修で，ＳＤＧｓなどを題材に複数回実施することが課題である。 全国規模のイベント出展など本校の取り組みを発表，発信できた。 課題は発表生徒が特定の生徒になってしまったことである。		○今後もエシカル消費に取組み，ゴミの分別や電気使用量のチェックを細かく行ってほしい。 ○エシカル消費に取り組む中で県下の高校をリードしていく気概と行動力をもってこれからも頑張ってほしい。 ○生徒を中心とした校内活動から広く地域を巻き込んだ大きな活動へと高めていくための実践力をしっかりと身につけてほしい。	○校外での発表においては，イベントばかりでなく近隣の幼稚園や小学校でも行っていきたい。
	②-1　生徒会役員や整美委員会を中心に，環境ＩＳＯとエシカル消費の関係を学習し，全校生徒による環境ＩＳＯの活動を推進し，着実に実践する。 （ゴミの分別作業によるゴミの減量，リサイクルの徹底並びに節電） ②-2　活動の点検結果を分析するとともにエシカルな観点から評価し，内容を掲示する。（毎月実施）	②-1　整美委員会を中心としたゴミの分別作業を毎週行い，ゴミの減量，リサイクルの徹底を通じ，ものを大事にするする気持ちを育てることにつなげ，エシカルの消費を推進した。 ②-2　整美委員化によるゴミの分別、リサイクルの徹底や，エアコンの使用のガイドライン作成よって，節電に努める意識付けを図ったり，鮎喰川河川のクリーン作戦に参加することによって地域貢献やボランティア精神の育成を行おうとしたことは，エシカル精神に通じることだと評価したが，毎月実施の内容掲示は行えなかった。	②-1　整美委員会によるゴミの分別作業は100%の実施ができたが，前期委員会だけであった。今後は後期の委員会を立ち上げて，通年行う必要があると思われる。 ②-2　活動の点検は重要で，それを生徒に目で見える結果として示していく必要がある。		○ゴミの分別はエシカル消費の観点からもとても良い取り組みだと感じた。	○毎月の電気使用量をグラフ化して掲示するなどの工夫をしていきたい。

総　括　評　価　表

重点課題　5
「魅力ある学校づくり」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標 中学生の進学希望数(年3回) 各回：前年度比 110%以上	評価指標による達成度 中学生の進学希望数：前年度比5.1%減	評定 C	総合評価 評定　B 農業科では，アグリビジネス科が２年目を迎え，新しい「そよかぜ」の運営も始まり特色が打ち出せている。 総合学科では，「産業社会と人間」や「エポック」の充実を図っているが，明確な特色が見えにくくなっている。部活動も含めて，多様な活動を活発化させたい。	B ○学校はこの課題について真面目に取り組まれています。	○中学生を対象とした出前授業など，学科の特性を生かした取組を通じ，本校の教育内容についての理解とともに，積極的な広報活動を推進する。また，3年後の進路充実，特に進学実績を伸ばしていきたいと考えている。 ○収益性だけでなく，良質で安全性の高い農産物の生産を行うことで質の高い農業教育を実施してい期待と考えている。 ○教職員全体が本校の重点目標を十分理解し，担当者だけに任せるのではなく，教職員間の連携がスムーズに行える体制づくりを実現させたい。
（全体レベル） 各学科の特色を生かした魅力ある学校教育を実践する （下位組織レベル） ①リーダーシップを発揮した農業教育を推進する。 ②魅力ある総合学科教育を推進する。 ③目標に向けチャレンジすることで，多様な活動を推進する。 ④サーバント型の教職員組織づくりを構築する。	①　ｱｸﾞﾘｰﾄﾞの実践活動を基盤とした農業生産の活性化 農場生産収入　900万円以上	①　アグリードによる「そよかぜ」販売所の運営が定着し，来客平均者数46名，年間開店日数29回となった。農場生産収益1,135万円	A			
	②　地域との連携した学習や外部講師による講演会　年5回以上 総合学科における選択科目の充実 生徒満足度　80%以上	②　生産技術科5回，植物活用科18回，食品科学科2回，アグリビジネス科10回実施した。 総合学科は「産業社会と人間」をはじめ各教科科目で合計12回実施した。 選択した科目の満足度 80.2%%	B			
	③　各種検定・競技での実績 四国・全国大会出場　3種目以上 ｱｸﾞﾘﾏｲｽﾀｰ取得　3人以上	③　学校農業クラブ四国大会1種目（分野2類で優秀賞）アグリマイスター0名	B			
	④　校務運営参画度　70%以上	④　積極的な校務参画には至っていないものの教職員間の協働体制は構築されつつある。　校務運営参画度：58.9%	C			
	活動計画 ①-1　もうける仕組みづくりを推進する。 （ｱｸﾞﾘｰﾄﾞを軸とした活性化） ①-2　農工商教育活性化方針に基づく継続的な取組を実践する。 （農商工連携6次産業化の取組を含む）	活動計画の実施状況 ①-1　アグリードによる売り上げ実績が3,526,120円となり農場活性化につながった ①-2　農工商連携6次産業化では，科学技術高，徳島商業高と連携し「食藍」についての全過程を参加校で共同して取り組み経験や知識を共有することで新たな商品開発へつなげることができた。	成果と課題 ①-1　アグリビジネス科を中心とした販売体制が整い，来場者の満足度も向上した。 ①-2　農業教育活性化の基盤として，各方策の継続・改善に加え，農工商の連携を密にし，6次産業化教育の発展に取り組む。		学校関係者の意見 ○農業教育と総合学科の２本柱を融合させ，独自性を発揮して学校運営に取り組んでほしい。 ○新聞紙上にて活躍されている様子を見て，先生方の努力を感じている。 ○教職員集団の指導力で，生徒の農業の知識と技術は確かな物になったと考えている。 ○どういう人材を育成するのかを明確にしてほしい。	○農工商の連携だけでなく，校内での総合学科と農業科のカリキュラムマネジメントを考え，生徒の実力を高めるための方策を実現させたい。
	②-1　自分の個性や適性発見し，将来の進路や生き方などを学ぶ「産業社会と人間」とそれに続く「エポックⅠ・Ⅱ」の充実を図る。 ②-2　総合学科の特性を活かした授業展開の充実を図る。	②-１　各学年担当者が年間指導計画を立案し，授業展開の方法や内容に工夫を重ねて実施。進路についてじっくり向き合うことのできたと思う生徒が27.9% ②-２　興味関心に応じて科目選択できたと思う生徒は84.8%　多様な科目選択ができることに魅力を感じる生徒が36.0%	②-1　総合学科の3年対象アンケートの質問方法によって，結果は少し変わってくると思われる。総合学科の中核となる科目であり，毎年進路や教務と連携し教員の役割や学習内容や方法を検討する組織を作り，協議をしながら新しい展開をしていくことが課題である。。 ②-2　各系列のなかの各教科科目で，特徴的な授業を行っている。少人数で主体的対話的体験的な学習を展開することで学び方を学び、進路実現にも繋がると考え		○総合学科は将来を見据えて中長期的な教育内容を計画すると良いのはと思う。 ○農業教育と総合学科教育を展開し，それぞれどんな教育を推進するのかがわかりづらい。評価指標としてもっと大きな枠組み，人材育成，人づくりを含めた指標はないものか。活動計画はそれに近いものがあるように思える。	○本校総合学科の目標や特長について，各系列やコースの成果や課題も踏まえて，毎年検討する組織体制を作り，次年度へとつなげたい。
	③-1 ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ学習及び学校農業クラブ活動を活発を行い，ＦＦＪ検定合格，ｱｸﾞ	③-1　学校農業クラブ活動では，県予選会へプロジェクト2部門，意見発表3部	③-1　学校農業クラブ活動の活性化は図れており，主体的に生徒の活動ができてい		○農業クラブ活動の発展をさらに期待している。	○各種発表会で成果を出すことを念頭におい

	ﾘﾏｲｽﾀｰ認定に結びつける。 （専門的指導の充実） ③-2 部活動の活性化並びに充実を図る。	門，平板測量競技へ出場した。また校内課題研究発表会では各科から9専攻の発表があり活発に行うことができた。 ③-2 部活動加入率74%。生徒の現状や要望について把握するために，部活動に関するアンケートを実施した。	るが，各種発表等での成果が現れていない。全国大会への出場，入賞やアグリマイスター認定を目標に活動内容の点検，改善を重ねていく。 ③-2 昨年よりも加入率が増え，他者との信頼関係やコミュニケーション能力の向上，挨拶や礼儀を学び，自己の成長を実感する生徒が増えた。	○多様な活動として農業だけでなく，商業や部活動での生徒の活動が見える指標がほしい。	たプロジェクト学習の指導を展開していく。大会で入賞することでアグリマイスター認定へとつなげることができる。
	④　業務改善を進め，働きやすい職場づくりを推進する。 （教職員組織の連携・協働）	④　定期考査期間中の放課後に行事を計画しない・平日の時間外勤務の入力を3月末まで延長し，超勤の多い教職員を把握し，声かけを積極的に行った。	④　超勤の多い教職員は把握できたが，入力をしていない教職員がいたり，仕事量の関係で，早く帰れない教職員がいたりする。できるだけ早く帰宅できるように，次年度は，今以上に声かけを行い，時間外勤務の少ない職場を再構築を図る		○次年度は，できるだけ早く帰宅できるように今以上に声かけを行い，時間外勤務の少ない職場環境を目指したい。